（様式１）

令和6年度　学力向上指導改善プラン

三田市立つつじが丘小学校長　松山　宏枝

学校教育目標			学ぶことを楽しみ、人とつながって心豊かに生きるつつじっ子の育成
推進主体			管理職と研究推進担当・生徒指導担当・新学習システム推進教員を中心に学力向上委員会
学力に関する前年度の状況・経年の課題等			
学力の状況	全国学力・学習状況調査結果の状況（国語、算数・数学に関する質問調査の結果も含む）	国語	◆「書くこと」では、正答率が20.8%（全国平均26.7%）で全国平均を5.9ポイント下回っているものの、昨年度は全国平均を15ポイント下回っていたため、全国平均との差が小さくなっている。（経年） 〇漢字を文の中で正しく使うことができるかをみる設問では、本校は87.5% (全国平均72.6%)で14.9ポイント上回っていることから、漢字の定着ができているといえる。 〇原因と結果など情報と情報の関係について理解しているかどうかをみる設問では、70.8%（全国平均64.7%）と約6ポイント上回っている。 〇目的に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめる設問で79.2%（全国平均70.2%）と9ポイント以上、上回っていることから目的をもって書く力が高まってきていることがうかがえる。
		算数 数学	〇図形領域では、本校が54.2%と全国を6.2ポイント上回っており、良好な結果であるといえる。 〇データの活用領域では、本校が69.4%と全国を3.4ポイント上回っている。 ◆変化と関係の領域では、全国平均が71.8%に対して本校は66.7%と4.1ポイント下回っている。 ◆切って開いた三角形を正三角形にするために、テープを切るときのAの角の大きさを書く問題では29.2%と全国平均を4.3ポイント上回っているものの、ポイント数は低く課題がある。 ◆テープを直線で切ってできた2つの三角形の大小についてわかることを選び、選んだわけを書く問題では、41.7%と全国平均を20.9ポイント上回っているが半数以上の児童が誤答を選んでいる。
	定期テスト、単元テストなどによる状況（各教科）		◆漢字の読みかえ、使い方に課題があり、音に当てはめた文字を書く傾向がある。（経年） ◆各教科の単元末テストでも、記述式で回答する設問において、学年が上がるにつれて無回答の児童が増える。
	授業等からうかがえる状況（各教科）		〇高学年では、学習したことをタブレットのアプリを用いてまとめる機会を意図的に仕組み、自分の考えを言葉や文章でわかりやすく表現しようとする意欲を高めている ◆学習内容を関連付けて考える意識が弱い児童がいるため、学年と学年の学習内容のつながりや単元同士の関連性を意識付けていくことで、児童に見通しをもたせながら学習に臨ませる必要がある。 ◆文字を丁寧に書くことや定規の使い方、机上の学習用具の置き方、鉛筆の持ち方、学習姿勢など、学習規律・授業規律の定着を図っている。 ◆あいさつや返事をはじめ、自分の思いを伝える力や主語と述語をはっきりさせて正しく伝える力をつけることが必要である。 ◆自分で課題を立てて情報を集め、それを整理して、調べたことを発表するという学習経験が不足している。
学習習慣・生活習慣等の状況	学力向上に係る	全国学力・学習状況調査の質問の状況	◆「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」の項目では、68%の児童があてはまると答えている。また、「学校が休みの日に一日どれくらい学習しますか」の項目に対して「1時間未満」と回答している割合が44%であった。 〇「自分には、よいところがあると思いますか」の項目では、96%の児童があてはまると答えている。また、「将来の夢や目標を持っていますか」の項目で92%、「人が困っているときは、進んで助けていますか」では、100%の児童があてはまると答えている。
		学校評価などのアンケート調査による児童・生徒の状況	◆教職員、保護者ともに自分からすすんであいさつをする子どもが少ないと感じている。 ◆ほとんどの子どもたちが規則正しい生活習慣を意識しているものの生活習慣が整っていない子どもが一定数いる。
授業改善	・主体的・対話的で深い学びを目指した授業改善 ・ICT機器を効果的に活用（クラウド環境を活かした授業実施等）		〇講師を招いて子どもがより主体的になる手法や教材についての講話や全体研修会などを開いて、教職員の授業力向上に努めている。 ◆気付きを呟く子どもは多いが、相手意識をもって対話を通して学びを深める授業の実現には課題がある。 ◆ICT機器の効果的な活用について研究と関連付けながら検証をしていく必要がある。 ◆タブレットを持ち帰り、家庭学習でアプリやミライシードなどを使って学習に取り組み、基礎学力を定着させることに課題がある。そのため家庭学習についての整備を行う必要がある。
研修の状況・校内研究	校内研究の状況		〇校内研究においては「タイが生まれる愉しい授業」をテーマに、主体的・対話的な学びを大切にした授業づくりを推進している。 ◆全国学力・学習状況調査結果の状況をふまえ、基礎基本の徹底・活用能力の育成・表現力の向上・問題解決に対する意欲の向上などについて更なる研究が必要である。
	校内研修の状況		〇研究推進委員会で子どもたちの学力向上への方策について研究を深めると共に、外部講師を招き、授業実践についての研修を進めている。 〇学期ごとに研修会を開き、教員の授業力向上を図っている。
家庭・地域連携	家庭・地域等の状況		〇3年生での田植え、2年生での町探検、1年生での昔遊びなど貴重な体験をさせて頂いており、地域が非常に協力的である。 〇新1年生の下校の見守りや配膳ボランティア、ミシンボランティア、図書ボランティアなど、地域人材を活用している。
	小・中における教科連携等の状況	校種間	〇生活指導・人権学習・英語学習などの観点から、中学校区で校種を超えて、授業を互いに参観し合い交流することを通して、児童の理解を深めている。

4月			2～3月	
学力向上に向けての重点的な目標	成果となる目標 （指標となる数値等）	具体的な行動目標 （成果目標達成のための具体的な手立て等）	年度末評価 （今年度の成果と来年度に向けた課題等）	評価
〇読書活動の充実	〇読書をする時間を昨年より増やす。 （1・2年15分以上、3年以上30分以上の児童が50%） 〇読書通帳で100冊達成する児童を昨年度より増やす。	・朝の読書タイムを活用して読書習慣を確立させ、本に親しむ機会を増やす。 ・学校司書を中心に、本の選び方指導や本の読み聞かせ、図書館便りの発行などを通して読書の楽しさを伝える。 ・「読書通帳」を活用して読書の質・量をともに増やし、数多く読書をした児童を表彰することによって、読書を一層奨励する。 ・図書室や学年フロアなど、本に親しめる環境を整備し、読書の楽しさを一層味わえるようにする		
〇文章を書く力の伸長	〇学年の発達段階に応じた書く力の向上を図る。 〇算数の思考過程を記述する問題の平均正答率が全国平均をめざす。	・低学年から日記や視写等の活動を通して、語彙力、表現力を高め、書くことに対する抵抗感をなくす。 ・分からない言葉は、辞書ですぐに調べさせる機会を多くとり、辞書を使う習慣をつける。 ・設定された字数や目的に合わせて、情報を取捨選択し、要約する学習を重ねる。 ・書いた文章を推敲する時間を設定し、自分の文章を読み直すことを習慣化させる。 ・図表やグラフなどを用いた文章や新聞記事を活用し、それらを用いる意図や効果について理解させるとともに、説明的な文章を書く際には、図表を効果的に活用できるように指導する。		
〇算数科を中心に「タイが生まれる愉しい授業」のテーマに沿って思考力を高める授業改善	〇校内アンケートで「算数が好き」という児童85%以上を目指す。	・「タイが生まれる愉しい授業」をテーマに、子どもが主体的に学習に取り組む授業の仕組みを研究する。 ・教育環境整備やつつじが丘小学校スタイルのノート作りを推進すると共に、相互評価を充実させる。 ・「つかむ」「考える」「深める」「ふり返る」の授業の流れの可視化を図る。 ・課題提示の仕方を工夫し、児童からめあてを引き出すことで主体的な問題解決につなげる。 ・自分の考えを工夫してまとめたノートを「いいねノート」として掲示する。ノートコンテストを行い、相互評価の場を持つことを通して、学習意欲を高める。 ・タブレットPCなどのICT機器の効果的な活用方法について研究を進める。		
〇学習規律・授業規律の定着と学習環境の整備	〇聴き合い学び合うクラス作りを行う。 〇授業でのあいさつをはじめ、自分の思いを伝える力や主語と述語をはっきりと正しく伝えることを意識する。	・正しい学習姿勢を目指し、キッピー体操を週2回行う。 ・学習の準備について指導・点検を行い、定着させる。 ・「目を見て話を聴く」、「反応しながら聴く」「体を止めて聴く」「手遊びをしない」など、聴く態度の徹底を図る。特に低学年では、望ましい聴き方ができている児童を褒めることで、クラス全体の聴く態度につなげていく。 ・中学校区での合同研修を実施し情報や取組等について共通理解を図る。 ・がんばり学びタイム指導員による個別支援を行い、学習習慣の定着につなげる。		
〇児童の家庭等での学習習慣の確立	〇保護者アンケートで「進んで家庭学習をしている」の肯定的な評価を80%以上にする。	・「家庭学習の手引き」をもとに、家庭学習の方法を指導し、高学年においては自主学習を家庭学習に取り入れる。 ・生活アンケートの結果から、ゲーム等に費やす時間や一日の過ごし方について、家庭でのルールをしっかりと決めることの大切さを知らせる。家庭と連携しながら情報モラル研修やタブレット研修などを行い、よりよい取り扱い方を継続して啓発していく。 ・保護者の協力を得ながら、読書や家の仕事、運動についても意識して取り組めるように啓発する。 ・児童が宿題を確実に行えるように、学習カードを活用し、児童・保護者・担任間で日々の学習の振り返りができるようにする。		
〇漢字と計算を中心とした基礎・基本のさらなる向上	〇漢字のまとめのテストを繰り返し行って、正答率85以上を目指す。 〇基本的な計算の定着を図る。	・朝学習における反復練習により、習得内容の定着を図る。 ・宿題による復習・繰り返し練習によって学力の向上を目指す。 ・放課後学習の時間を確保することで基礎・基本の一層の定着を図る。 ・担任・教科担任・兵庫型学習システム教員及びがんばり学びタイム指導員との連携を密にし、個に応じた指導の充実をさらに図っていく。		
〇ICT機器等の効果的な活用	〇学習の中でミライシードのムーブノートやオクリンクを使って意見を交流することができる	・タブレットなどのICT機器を用いて、児童一人ひとりの実態に合わせた学習をすすめ、履歴を残すことで、基礎基本の定着を図っていく。		